

新しい日常生活へ

花ノ木

第 117 号

令和 5 年 11 月 26 日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

H.P <https://kyoto-hananoki.jp/>

第一病棟

秋の風が吹き季節が進み涼しくなってきましたが、今年の夏は猛暑が続きました。7月は病棟内でを行いました。

7月は病棟内に飾る七夕飾りを各利用者さんが思い思いの願い事を短冊に書き、透明の使い捨てのコップに色を付けたリ、シールを貼ったりして風鈴を作り、その下に短冊をつけて病棟内の笹に飾りつけをしました。

センター行事では夏祭り週間で多目的室で飾りつけをして、うちわに絵付けをしたり、千本引きなどのゲームを個別活動として利用し、利用者さんと楽しめました。なかには、何度も行っておられる利用者さんいます。

8月の活動は、今年とは暑い夏だ



第二病棟

つたので、ウォーターガンを使つたの的当てゲームをしました。ランチルームにブルーシートで養生しトイレットペーパーをつるして撃ち落とします。紙が落ちるとニコニコと笑顔で楽しまれている姿が見られました。

(生活支援員 豊田 剛)

8月24日に2棟ランチルームにて、夏の思い出作りとして「水鉄砲を使った的当て大会」を行いました。体調不良の1名を除き、全員が参加することができました。的当て大会は、ランチルームに竿を用意して、半紙に書かれたお化けたちを倒していく形で行いました。

当日、活動があることを利用者さんに伝えると「なにするん？」や「早く行こう！」といった楽しみにされている声がたくさん聞けました。水

鉄砲を3台用意して、利用者さんを午前・午後と5〜6名ごとに分けて、利用者さん全員が順番に参加できる形で行いました。水鉄砲は、自分で押したりでき



る方には角度を調整したり、引いて押すタイプの物は職員と一緒に引いて押したりして楽しめました。呼吸器を使用されている等で、なかなか部屋から出る事が難しい利用者さんも、看護職員と協力しながら全員が参加出来ました。

昼食時にはジュースを提供し、「またやりたい」といった声や笑顔もたくさん見ることが出来たため、今後利用者さん全員が参加でき、楽しんでもらえる活動を計画していきたいと思ひます。

(生活支援員 山本 萌華)

第三病棟

第3病棟の取り組みとして実施している、集団活動の「お湯部」と毎月「誕生日会」を紹介します。

お湯部では4名の利用者さんが参加し、浴室の脱衣場で、暖かいお湯を洗面器やフットバスに準備し、入

浴剤を入れて手浴と足浴を行います。実施中、目を大きく開き、自身が手浴や足浴している様子を確認して、声を出して笑顔で喜ばれている利用者さんみれば、お湯が暖かくて気持ちよくなつてきて、ウトウトと眠ってしまう利用者さんみおられ、良い香りの保湿クリームを塗ると皆さんとてもリラックスされている様子でした。

一方、誕生日会では誕生月の利用者さんに廊下に集まって頂き、他の利用者さんみ見守る中、お生まれになった時のエピソードや生い立ちを職員が朗読し、「おめでと」と声掛けと拍手を行い、ハッピーバースデーを全員で歌いお祝いしました。笑顔になった利用者さんの表情をインスタントカメラで撮影。写真は皆さんに見てもらえるよう詰所前のドアに貼り、楽しい雰囲気味わっていただきました。



9月までは猛暑続きでなかなか屋外での活動が難しかったのですが、10月からはどんどん実施していければと思ひます。

(生活支援員 山本 駿)

第五病棟

9月28日(木)久しぶりの外出活動に行ってきました

コロナ禍では、センター近辺のドライブや病棟内でデザート、病棟外でのDVD観賞と、外出とは言えない活動が続いていましたが、この日は朝から車に乗ってスプリングス日吉へ向かいました!

利用者さんは、サングラスやキャップを被り準備万端で乗車。緩やかな坂少し荒れている道、気温は10月目前だというのに夏日…。職員は汗だくになりながら車椅子でダム近くまで散策しました。



円形橋から眺める日吉ダムの大きさに皆で驚き、常設のキャンペーン用テントの中を覗き、トンボや木の葉の話を大いに盛り上がりました。久しぶりの外食では、沢山ある中でなぜこれを選んだのか『揚げ小籠包』。何度も確認するも『これ』と、決意は固いようでした。また、料理をロボットが配膳する姿に喜び、笑顔が絶えない食事となりました。

帰りには、スタバでフラペチーノを購入し、外出活動は終了。花ノ木に帰った後、デザートを嗜みながらお昼に食べた小籠包やロボットの話を何度もされる様子に、楽しい外出活動になって良かったと職員も嬉しくなりました。

はなのき通所

9月19日に通所夏祭りを開催しました。

感染対策が緩和され、久しぶりの行事となりました。夏祭りに相応しく太鼓あり、盆踊りあり、ゲームありの盛り沢山の内容となりました。

オープニングは賑やかに地域支援部長、通所係両主任による和太鼓のぶち合わせです。猛練習もあり、見事なバチさばきで利用者の皆さんを引き込んでいきました。太鼓の音が鳴り響く中、皆さんの表情が徐々に変わっていくのがしっかりと伝わってきました。

2番目の出し物は盆踊りです。「大井音頭」に合わせて車椅子仕様にした踊りで盛り上がりました。中央では太鼓の鳴り物が加わり盆踊りの雰囲気をも更に盛り上げました。夏祭りに向けてはレクレーションの時間にみんなで踊りを練習してきました。当日は皆さん

(生活支援員 棟影 昌子)

しっかりと踊りまわることができました。絵本「かもとりのごんべえ」の「ごんべえ」さんも自前の法被を着て踊ったり太鼓を叩いたり大活躍でした。



そしていよいよメインの射的ゲームです。棒に景品を吊るしてそれを狙って打ちました。一発目で当たる人、何回も挑戦する人と様々でしたが景品のタオルに玉が命中すると大きな拍手が湧き、時には的の後ろで写真を撮っている職員に大当たりして一斉に笑いが起きる場面もみられました。

最後に久しぶりとなる全員での集合写真を撮影。皆さんいい表情でカメラに納まってもらいました。

(生活支援員 小林 美佐子)

児童発達支援センター

児童発達支援センターでは、花ノ木のディスプレイ活動に参加し、児童発達支援センター玄関と花ノ木医療福祉センター外来の受付に、子どもたちの共同制作の作品を展示しました。8月・9月のテーマカラーが「青」だったので、おひさままでは大きな紙一面に色々な「あおいろ」を塗るクラス、海の生き物を作るクラスに分かれて制作し、合体

させた「うみのいきもの」、ココはなのきでは、藍色の空をバックに、たくさんの火花がゆらゆら揺れる「火花」を展示し、児童発達支援センター・花ノ木医療福祉センターの利用者の方々に見ってもらうことができました。

9月末で展示は終了しましたが、花ノ木後援会よりお声をかけていただき、どちらの作品も10/15(土)に開催された「亀岡市障がい者福祉大会つなごろう作品展」に出品することができました。おひさまは、昨年引き続き2度目の出品となります。地域の方々にも子どもたちの作品を見ていただくことができました。



花ノ木のディスプレイ活動は継続中で、11月・12月のテーマカラーは「赤・白」です。花ノ木各部署からの作品展示が楽しみです。

(心理判定員 高橋 良子)

季節が進んだ様子で風がすっかり冷たくなった某日に、今年度看護生活支援部長に就任された武内さんにインタビューをしました。

改めてお話を聞くのは緊張しますが：「わたしあんまり考えてこなかったからごめんね」という一言で途端に和やかな雰囲気になり、色々とお話しいただきました。

●これまでの経歴を教えてください

出身は島根ですが、京都の宇多野病院の看護学校に進学し、そのまま就職しました。初めは整形に配属され、予定入院の慢性疾患の方が多く、のんびりした雰囲気でした。そして結婚・出産し、透析室に配属され、2人目の出産で退職、亀岡に引っ越ししました。しばらくは、子育てを中心に過ごしちよつとだけ内職もしていました。

経験が少ないまま退職したので、早くしないと現場に戻れないと考え、亀岡市内の一般病院に就職しました。子供が小学校1年生になった時期に、以前に就職フェアで知っていた花ノ木の職員募集のチラシを見たのをきっかけに就職させていただきました。

●それから何年お勤めですか？印象に残っていることは？

25年ですよ(笑)当時のセンターは新しくとても綺麗でした。

印象的な事は、スタッフがすごく優しく、音楽のボランテニアの方の歌声を聞いたり、ゆったりとした時間でお仕事させてもらっていました。

看護の面では、小さな傷など本当に細いところまで申し送りされ、自分で意思表示できない利用者さんにとって、

細かな事まで気づいてケアするのは大切な事と感じました。

●看護生活支援部長に就任されてどんな思いですか？

1年間次長を務め、心積もりがなかったわけではないのですが、人前に立つて引つ張っていくタイプではないので、

シリーズ「この人にきく」

看護生活支援部長 武内 知美 さん

今回は、4月に看護生活支援部長となられた武内知美さんにお話を伺いました。



「ドーン」と構えられる人になりたい、安心できるような懐の大きい部長になりたいと思っっています。長く続けていく中で、最初は分からず、受入れられなかった事が、後々振り返って、正しかったとか、大切だと気付けるようになると思うので、まだまだ成長できる

しいんですが：でもスタッフの皆さんがしっかりしているので安心していきますし、助けていただいています。

●プライベートについて、ご家族や趣味、好きなことは？

私、出不精なんです(笑)犬を2匹飼っています。これまでたくさん飼ってきて、3匹同時のときも(笑)

家族が山登りのグッズを買ってきてくれるので、ハイキングに行こうと思ったり、刺繍の動画を見てとても優雅でやってみたいと思ったり、やりたいことはいっぱいあるんです。でも、なかなか行動に移せないの：これからは、「好き」をたくさん増やしていきたいと思っています。

元気でいてくれる親元へ会いに行ったり、京都市内の娘宅では2人の孫と遊んだりしています。可愛いですよ。

●最後に現場へのメッセージを

基本的な倫理観や仕事をする上での自己研鑽は大事だと思っています。ひと昔前とは違い情報を得やすい時代になってきていると思います。学ぶ機会を自分自身でも増やし、たくさんチャレンジして、年齢問わず成長できるように一緒に頑張っていきましょう！

●インタビュウを終えて

終始マイペースでおおらかな心地のよい時間が流れるインタビュウができました。武内部長の普段なかなか見られない一面を知ることができ、貴重なお時間を頂きました。

お忙しい中、本当にありがとうございます！

(編集委員) 須藤 耕仁
渡邊 絵里

悩みながら引き受けました。前部長さんの動きをしっかりと近くで学ばせてもらって、私も同じようにと思っっています。が：実際はなかなか難しいです。

●改めて今、大変な業務の中で楽しい事、目指している事、目標など教えてください。

掲示板

◆情報発信事業 はなのき料理講習会



令和5年10月18日(水)情報発信事業「第3回在宅向けはなのき料理講習会」を多目的室にて開催しました。今回は調理実演に加え、調理体験をしていただきました。

調理実演では、すり鉢で簡単！ままとまりのあるキザミ食^レをテーマに「鮭のチーズ焼き」「切り干し大根」を紹介しました。レシビでは、嚥下障害をもつ方に適したキザミ食とはどんなものなのかを、知っていたかどうかでできたのではないかと思います。細かくした食材をそのまま提供するのではなく、つなぎとなる粘性のある食材と合わせることで食べやすくなることをポイントとして紹介しました。すり鉢を使ったレシビは皆さん大変興味をもたれ、調理の様子を熱心に見ておられました。味もすっかり気に入って食べやすいと好評でした。

簡単なベースト食の紹介では「レンコンの味噌汁」を作りました。レンコンはすりおろしたり、ミキサーにかけることでとろみがつきます。その特性を利用して自然な食材のみでとろみがついたお味噌汁を紹介しました。花ノ木でもレンコンは硬くて使えない食材という考えを見直し、今はすりおろしたレンコンを料理に取り入れています。



調理体験では花ノ木で提供している完全に食べられるお餅を作っていました。また、「美味しい」「このお餅なら安心して食べられる」「実際に調理体験ができて良かった」と嬉しい感想をいただきました。質問や参加者同士の会話も飛び交い、望んでいたアットホームな参加型の講習会となりました。



障害者の食事については私たち管理栄養士や調理師も入所者さんから得て学ぶことは多く、これらを地域へ発信することも専門職としての役割と捉え、今後も情報発信事業などで地域に還元したいと思っております。

(栄養管理係 管理栄養士 青山佳子)

※前号掲示板掲載記事の補足について
花ノ木第116号に掲載しました令和4年度苦情報告の内容について、ご利用中の就寝場所が本来の就寝場所ではない、「食堂の一部を使用していたこと」と示しましたが、食堂に車いす等が置かれており「物置のようにみえる場所であったこと」「ご家族にもその場所が食堂であることの説明が不足していたこと」を補足いたします。

花ノ木の動き

(令和5年七月一日〜令和5年十月三十一日)

- 7/5 所内研修「理事長講話」
- 6 看護実習 聖カタリナ高等学校(〜7)
- 9 情報発信事業「夏の思い出にアート作品を作ろう〜今年もヨットだよ〜」
- 21 所内研修「みんなで学ぶ育休」
- 14 医管棟・通園棟・児発支センター防災訓練
- 13 看護実習 京都中部総合医療センター看護専門学校
- 8/1 看護実習 明治国際医療大学
- 8/7、21、10/19、20 所内研修「施設の改修計画」
- 2 介護実習 立命館大学(〜9/8)
- 3 社会福祉体験(〜10/22、23)
- 8 介護実習 京都橘大学(〜9/9)
- 28 リハビリ実習 藍野大学(〜8)
- 5 医管棟・通園棟・児発支センター防災訓練
- 4 通所夏祭り
- 10/1 所内研修「個人情報保護・苦情解決」
- 6 総合防災訓練
- 12 所内研修「他施設見学」
- 14 亀岡自衛消防隊連絡協議会消火訓練大会
- 28 情報発信事業「ボランティア講座」
- 30 亀岡市危険物安全協会ソフトボール大会
- 4 所内研修「人事評価制度」
- 12 所内研修「感染対策(基礎技術)」
- 18 情報発信事業「はなのき料理講習会」
- 21 情報発信事業「子どものことば・読み書き」
- 25 所内研修「前期医療安全」
- 29 看護実習 京都先端科学大学
- 第25回花ノ木ふれあいまつり

ありがとうございました

寄付・寄贈 (敬称略)

◎寄附
小谷早苗

◎寄贈
あけぼの学園 るりけい寮(紙オムツ7袋)

編集後記

「好きを見つめる」今号のインタビューでもお聞きした言葉です。私自身も最近読んだ著書で「心の中には色々なシードがあつて、好きを見つけた時に芽がでる...それに気がつくことが大切」そして「芽が出たシードもそれに執着することなく違うなと感じれば無理しなくても良い」このような言葉に出会いました。

それに気がつくようにするためには、自分自身に向いていないと分らないと思うので、最近あまり周りに流され過ぎないように自分自身を見つめる様にしています。

ここ数年私自身も、興味がある事や何か自分に問いかけがある時は、出来る限り早くレスポンスする様にしています。正直先の事を考えたりして不安になり、行動を起こすこと自体がおっくうな時もあります。出来る限り早くレスポンスすることで何らかの変化があります。それが全て好きに繋がる物ではないですが、ほんの少し自分の世界が広がっている気がします。

偉そうに書いてしまいましたが本当は難しく、日常生活や忙しさに流されてしまい、なかなかうまくいきません...でも子育ても終わり、自分の残りの時間をどう過ごすかを考え、出来る限り行動を起こすという事はしっかりと行こうと思います。

そんなこんなでまとまりのない編集後記でした。季節が急激に進むようなので皆さん健康には気をつけて「自分のシード(好きの種)が発芽する瞬間を見逃さない様にして下さい...」

(編集委員 須藤耕仁)